



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

山梨県 富士吉田市立富士見台中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピアンはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック**： 渥美 万奈 先生 (ソフトボール) 【出場オリンピック／東京2020大会】

■ **期 日**： 2024年10月4日(金)

■ **ク ラ ス**： 2年1組／運動の時間

○ 自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・ソフトボール競技で東京2020大会に出場したと自己紹介した後、オリンピックバリューについて説明し、運動の時間は最後まで諦めずに取り組む、思いやりを持って協力する、ルールを守るの3つを意識して取り組んでほしい。準備体操は足の指先のストレッチ等を行った後、前後左右の指示する方向に両足でジャンプをする、言うこと一緒やること一緒を実施。2回目は言うこと一緒やること逆、3回目は言うこと逆やること逆、4回目は2人組で手を繋ぎ、言うこと逆やること逆を実施。

○ 主運動 等



・主運動はボール中継リレーを実施(4回)。班毎に1列に等間隔で広がって並び、先頭から順番に次の人にボールを投げて送り、折り返し地点の人から同様に投げてスタート地点に戻し、ボールが2往復する速さを競う。1、2回目はバレーボール、3回目以降はゴム製のソフトボールを使用する。途中作戦タイムを設け、各班でタイムを縮めるための作戦を話し合った。実施後、工夫した点を尋ねると、取りやすいように相手の胸の位置に投げるようにした、上投げできない人は下投げにした等の回答があった。



・運動の時間を振り返り、どの班も回数を重ねる毎にタイムを短縮することができた。結果だけではなく、目標タイムを設定することで目標を達成しやすくなることや、仲間と一緒にどうすれば記録を更新できるか工夫しながら一生懸命に取り組んだこと等、その過程が大切である。運動の時間は、皆が思いやりの気持ちを持って仲間と協力することを意識できていた。座学の時間は、運動の時間に感じたことを言語化し、オリンピックバリューに当てはめながら一緒に学んでいきたいと伝え、授業終了。

■オリンピック：渥美万奈先生（ソフトボール）【出場オリンピック／東京2020大会】

■期 日：2024年10月4日（金）

■クラス：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像を見ながら自己紹介し、小学校4年生の時にシドニー2000大会のソフトボール競技を見て、自分もここで活躍したいと思いオリンピック出場が目標になった。日本代表では1試合でエラーを3回する等、上手くいかず、諦めて辞めようとするまで落ち込んだ。最後に何かできることはないかと考え、日本代表にもかかわらず先輩に基礎から教えてほしいと相談したところ、マンツーマンで指導してくれ、最後まで諦めない気持ちと先輩の協力があったからこそオリンピック出場の夢が叶った。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に工夫したこと、挑戦したこと、協力できたことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「ボールを落としても最後まで全力で取り組む」「ボールに合わせて投げ方を工夫する」「失敗から学ぶ」等
 フレンドシップ：「相手を取りやすいボールを投げる」「声を掛け合う」「仲間の特徴を理解する」「投げ方を教えてもらう」等
 リスペクト：「仲間に感謝する」「ルールを守る」「謝罪と感謝をきちんと伝える」等



・オリンピックバリューはスポーツだけではなく、皆の日常生活にも当てはまるものが沢山あることに気付けたと思う。これからこの3つの価値をバランス良く意識しながら過ごしてほしい。目標や夢を途中で諦めたいと思っても、そこで諦めずにもう一回踏ん張って最後までやり遂げる気持ちが大切であることを忘れないでほしい。皆はスポーツに限らず何事にも1番になる可能性を秘めており、これからの人生の中での金メダルを獲ってほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



■記念品贈呈

・2年1組



■修了証贈呈

